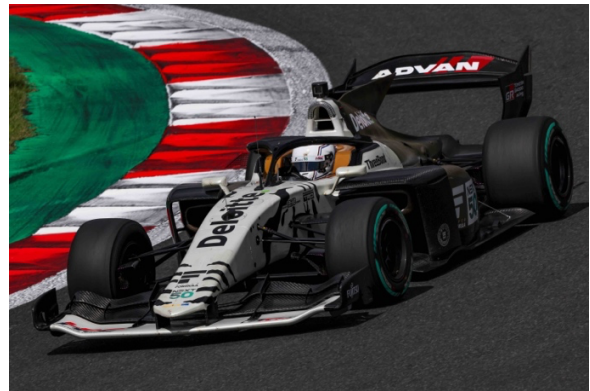


報道関係各位

2024年9月28日

SUPER FORMULA NEXT50 2024年 第3回カーボンニュートラル開発テスト実施報告

全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下「SUPER FORMULA」)を開催する株式会社日本レースプロモーション(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：上野 禎久、以下「JRP」)は、9月26日(木)・27日(金)の2日間、今シーズン3回目となるカーボンニュートラル開発テスト(以下CN開発テスト)を、富士スピードウェイ(静岡県駿東郡小山町)で行いました。



<開発テスト車両 通称「赤寅」(高星明誠選手)> <開発テスト車両 通称「白寅」(塚越広大選手)>

JRPでは2022年から「SUPER FORMULA NEXT50」プロジェクトを通じ、「カーボンニュートラルへの対応」と「エンターテインメント性の向上」の2つをテーマに、メーカーの垣根を越えてCN開発テストを繰り返し実施しています。

2023年に導入した現行マシン『SF23』は、カーボンニュートラルの対応として、原材料ならびに製造過程でのCO2排出量を約75%抑制した「Bcomp社」のバイオコンポジット素材や、天然由来の配合剤やリサイクル素材等、再生可能原料を活用した横浜ゴムの「カーボンニュートラル対応レーシングタイヤ」を採用しておりますが、今回のテストでは来季導入を目指している新しいドライタイヤ用コンパウンドとケーシング(タイヤ内の構造)の最終確認テスト、及び前回に引き続きステアリングや各種ECU(Electronic Control Unit)の装着・動作テストを行いました。

開発テストにはWhite Tiger SF23(通称「白寅」)とRed Tiger SF23(「赤寅」)が参加。引き続き「白寅」の開発ドライバーは塚越広大選手、「赤寅」は高星明誠選手が開発ドライバーを担当。初日の26日(木)は午前のセッションが9時から11時の2時間、午後のセッションは12時50分から14時50分の2時間、計4時間の走行テストを実施しました。



＜カーボンニュートラル対応レーシングタイヤ＞

テスト 2 日目の天候が雨予報となったため、塚越、高星両選手ともにドライ路面を精力的に走行し、2セッションでそれぞれ 110 周を周回、多くの情報・データを収集しました。収集、蓄積されたデータの分析、タイヤの磨耗状況などを詳しく分析した上で、今後は来季に向けたドライタイヤの最終仕様を決定するプロセスに入っていきます。

テスト 2 日目は朝からどんよりとした雲行きで、路面には所々に前夜の雨によるウェット・パッチが残るものの、セッション開始の 8 時 45 分にはまだ雨が降らず、初日に引き続きドライタイヤでのテストメニューで走行テストを実施いたしました。午前の 3 時間のセッションでは、塚越選手が 47 周、高星選手が 59 周を周回し、車両のセットも慎重に調整しながらタイヤとの合わせ込み作業を行いました。午後のテスト走行もコンディションは曇りながらドライ路面となり、引き続き当初予定されていたドライタイヤでのテスト走行となりました。午後 13 時 15 分から 14 時 45 分までの 1 時間 30 分のテストでは塚越選手が 44 周、高星選手が 26 周回を走行し、2 日間の CN 開発テスト走行は終了しました。

また、テストの初日夕刻には近藤真彦 JRP 取締役会長が、スーパーフォーミュラの前身のフォーミュラ・ニッポン時代にレーシング・ドライバーとして参戦していた 2000 年以來、約 24 年ぶりに国内最高峰フォーミュラカーに乗り込み、テスト・ランを行いました。乗車前には、シートポジションや、ステアリング操作、パドルシフト操作などを開発ドライバー高星選手と入念にチェック。開発車両である Red Tiger SF23「赤寅」に乗り込むと、ミスなく約 5 周を周回。途中ピットロードに戻り、こちらもミスなくスタート練習も行いました。近藤会長の開発車両によるデモンストレーション・ランは、10 月 12 日(土)、富士スピードウェイで開催されるスーパーフォーミュラ第 6 戦の予選・決勝レース当日に、多くの来場者の前で披露される予定となっており、このデモランには、横浜ゴムより再生可能原料比率を約 60%まで高めた「ADVAN(アドバン)」プロトタイプレーシングタイヤが供給されることになっています。

JRP では CN 開発テストを通して得られた知見を活かし、今後もカーボンニュートラルとエンターテインメントの向上に向けた活動を継続してまいります。

次回第 4 回カーボンニュートラル開発テストは 11 月 12 日(火)にスポーツランド SUGO(宮城県柴田郡村田町)で、来季に向けたレイン仕様のタイヤテストを実施する予定となっています。

第 3 回カーボンニュートラル開発テストメディア・フォト

<https://old.superformula.net/app/user/media.php>

パスワード : sf2024



<開発テストセッション後の報告会の様子>

開発ドライバー 塚越広大選手のコメント



「天然雨コンディションにはなりませんでしたが(笑)。期待をしてましたので残念でした。前回鈴鹿の開発テストで評価したタイヤが富士スピードウェイではどうか、というところがメインにはなりましたが、暑い鈴鹿で良かったタイヤが富士では少し違う評価になりましたが、横浜ゴムさんとしては想定内のコメントだったということです。季節やコースの違う状況に合わせたタイヤをどう作るか、多くのテストを通じてケーシングやコンパウンドを試しましたので、諸々取得したデータを検証していただいて、良い組み合わせのタイヤを作ってもらいたいことを期待しています。」

開発ドライバー 高星明誠選手のコメント



「結果 2 日間ともドライのコンディションになってしまいましたが、ドライ仕様のタイヤに関して多くの再確認ができたので、良いテストになりました。あとはドライバーが「こうあって欲しい」と思うフィーリングと、JRP や横浜ゴムさんがやりたいと思う方向性に若干差があるように思いますので、そこをどうバランスさせるかが重要だと思います。ある程度歩み寄ってベストの回答が出れば良いと思っています」

テスト・ランを行った近藤真彦 JRP 取締役会長のコメント



「ドキドキ・ワクワク、こんなにも無茶苦茶に自分を盛り上げてくれるマシンなんだなど。現役時代のマシンに比べると当時の F1 マシンのレベルですよね。凄いパワーを感じましたし、モリゾウさん(豊田

章男トヨタ自動車会長)に刺激されて先日レースにも出て、レース魂というか、経営的な観点からではなく、本当のレースの楽しさを味わえましたが、今日はそれ以上に味わえた感じがあります。ホームストレートでアクセルを全開にした時には、違う自分、勝負をしていた時の自分がアクセルを全開にさせている感じでした。このワクワク感、ドキドキ感をレースファンの方々、まだファンでない方々にもお伝えしたいとあらためて思いました。」



本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

株式会社 日本レースプロモーション

広報担当：上坂、上田

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-5 axle 御茶ノ水 3F-304

TEL. 03-5801-6470 FAX. 03-5801-6471

E-mail. media@superformula.net